

新博物館の特色

(資料1)

新博物館の使命・テーマ・活動理念

■新博物館の使命

- 1 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす博物館
- 2 学びと交流を通じて人づくりに貢献する博物館
- 3 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する博物館

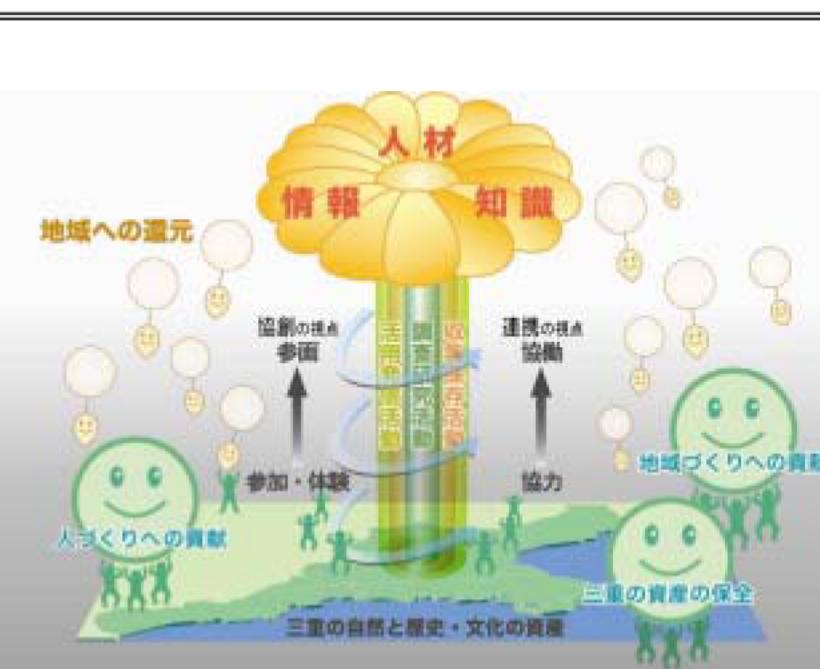
■新博物館のテーマ

三重が持つ『多様性の力』

新博物館は、みなさんとともに三重の特色である「多様性」を探求し、生かすことにより、力にしていきます

■活動理念

ともに考え、活動し、成長する博物館



新博物館の特色となる7つのポイント

協創の視点

すべての博物館活動を県民・利用者に開き、ともに活動することにより「文化と知的探求の拠点」としての博物館をみんなでつくり上げ、発展させていきます。

連携の視点

県内外の多様な主体とともに博物館の活動に取り組み、多様な主体のもつ力を得て、博物館の活動の質や量を高め、県民・利用者にとってよりよい活動やサービスを提供します。

新しい“総合”

新しい総合の観点に立つとともに、館内にとどまらない博物館活動を展開します。

- 三重の自然と歴史・文化を総合的に捉えます。
- 活動を総合的に展開します。
- 人や組織の総合力を生かします。

館外活動への展開

収蔵エリア

地域・世界への発信

調査研究 エリア

資料の 閲覧

テーマ 展示

交流創造エリア

学習 プログラム

基本展示 展示エリア

情報の 受発信

公文書館 機能の 一体化

・歴史的公文書を三重の資産として一體的に保全・活用します。
・総合博物館との一体化は、全国初の本格的導入例となります。

交流創造

- ・みんなが主体的に活動し交流するための中核的な場として、新たに交流創造エリアを設けます。
- ・誰もが気軽に訪れることができ、新しい発見・驚き・知的好奇心へと誘う場とします。

多彩な展示

- ・多様な三重のあらましを紹介する基本展示と三重の魅力をフレキシブルに組み合わせて紹介するテーマ展示などを展開します。
- ・みなさんとともに展開する活動により、出会いや交流の場となる展示とします。

新博物館にはみなさん一人ひとりの楽しみ方、関わり方があります

県民・利用者の関わり方に応じた活動の展開

県民・利用者のみなさんから見た博物館利用のあり方

博物館と 出会う

たとえば…

- ・展示を見る
- ・イベントに参加、交流する
- ・憩いの空間を楽しむ

博物館活動に 参加する

たとえば…

- ・学習プログラムに参加
- ・レファレンスで調べ物
- ・調査活動に参加

博物館活動に 参画する

たとえば…

- ・学習プログラムの運営に参画
- ・展示の運営に参画
- ・調査活動に参画

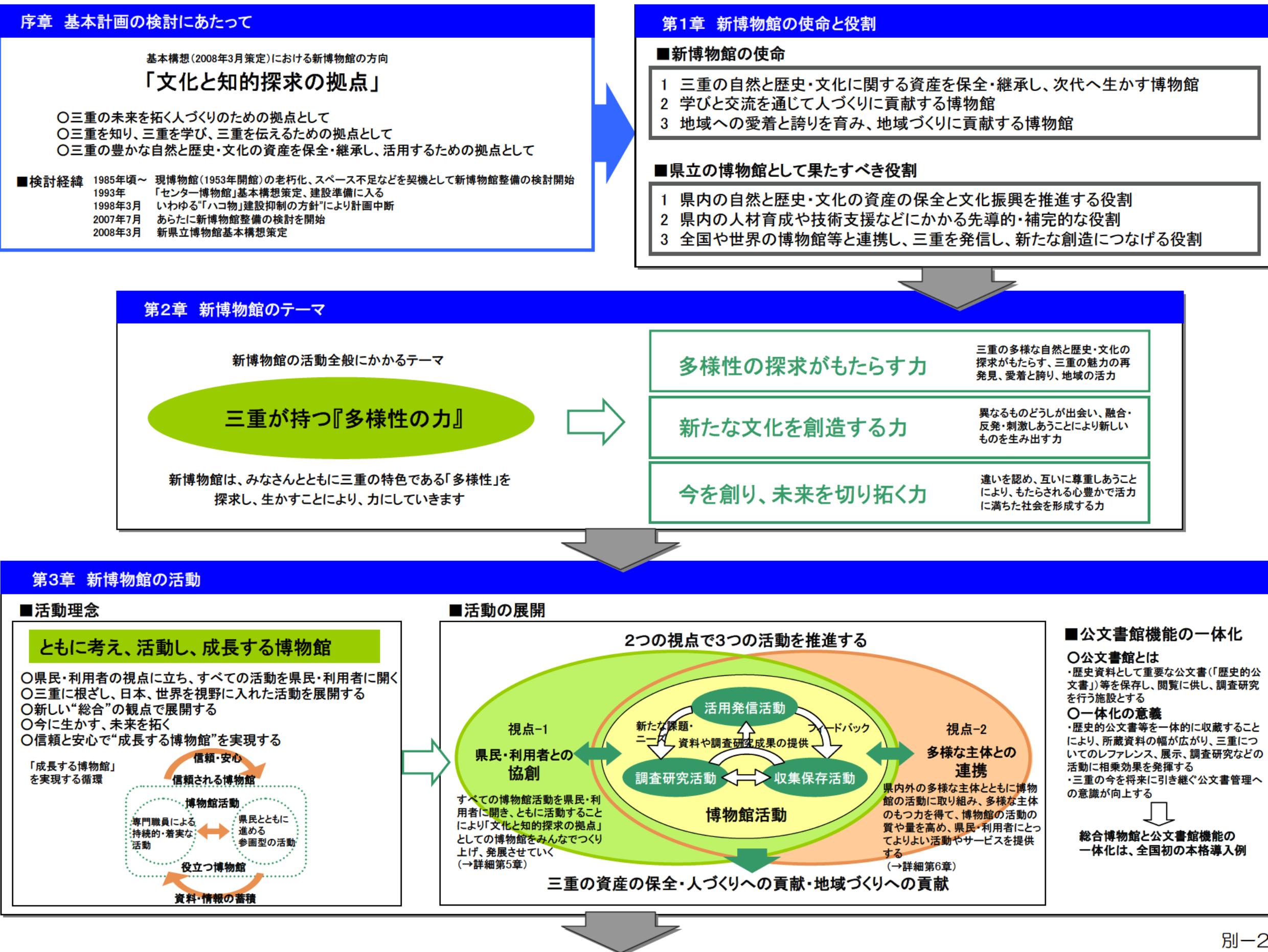
博物館利用を 究め 自らの活動に 生かす

たとえば…

- ・学習プログラムを館と協働で企画・運営
- ・自らの活動に博物館を活用
- ・調査研究を館と協働で実施

県民・利用者のみなさんと 協創の視点で活動を進めるための取組(例)

- 県民・利用者参加型で行う全県的な調査研究の取組
- 次世代の新たな活動の場をつくる取組
- 地域で主体的に活動する人を支援する取組
- 博物館活動の評価を県民・利用者の参画を得て行う取組



第4章 基本的な活動計画

- 三重の自然と歴史・文化の資産を保全・活用する博物館の基盤となる基本的な活動として、調査研究・収集保存・活用発信の3つの活動を進める
- 3つの活動を相互に結びつけ、それらのすべてを県民・利用者に開き、協創と連携の視点により展開する

調査研究活動 ~みんなで見つける三重の魅力~

- ・博物館活動の根幹となる活動として、収集保存活動や活用発信活動に役立てる
- ・長期的な計画のもと、分野間の縦割りではなく、横断的・総合的な観点に立ち、幅広い調査研究活動を展開する
- ・広く県民・利用者の参加・参画を得るとともに、諸団体・諸機関とも連携しながら進める

収集保存活動 ~みんなで守る三重の宝~

- ・三重の自然と歴史・文化に関する資産の衰退・散逸・滅失を防ぎ、県民の共有財産として次代に引き継ぎ生かす
- ・地域の多様な主体、県民・利用者とともに進めることにより、地域資産の守り手の育成や地域資産の保全活動を支援する
- ・新たな資産の発見と調査研究活動や活用発信活動につなげる

活用発信活動 ~みんなで育む三重の誇り~

交流創造

- ・さまざまな学びや実体験のプログラム等で世代を超えた交流を通して、新しい発見・驚き・知的好奇心へ誘い、三重の誇りや新たな創造・発信につなげる（新博物館の特色となる重要な活動）
- 交流創造の中核的役割を果たす交流創造エリアの設置
- ・レファレンス　・情報の受発信　・資料の閲覧　・学習プログラム

- ・調査研究活動、収集保存活動の成果に基づき、三重の自然と歴史・文化の資産を誰もが幅広く活用し、発信する

展示

- ・従来型の一方的な公開にとどまらず、交流創造の取組と連動させた県民・利用者との双方向・交流型の活動とすることで、出会いと交流、多様な三重の魅力の再発見と発信を行う
- ・基本展示（三重が持つ『多様性の力』をテーマとし、三重のあらましを伝える場）
- ・テーマ展示（企画展示、トピック展示、交流展示[県民協働交流展・他機関等との連携展・県諸施策との連携展]）
- ・分類展示、体験展示、野外展示、移動展示

第5章 県民・利用者との協創により進める活動計画

基本的な考え方

- より多くの人が訪れるための活動と誰にとっても利用しやすい博物館づくりを行う
- 県民・利用者の関わり方に応じた活動を展開する
- 県民・利用者とともに進める活動を実践する

県民・利用者の関わり方に応じた活動の展開

- 県民・利用者の視点から見た博物館利用のあり方**
- 博物館と出会う
- 博物館活動に参加する
- 博物館活動に参画する
- 博物館利用を究め、自らの活動に生かす

県民・利用者との協創の視点による活動を進めるための取組（例）

- 県民・利用者参加型で行う全県的な調査研究の取組
- 次世代の新たな活動の場をつくる取組
- 地域で主体的に活動する人を支援する取組
- 博物館活動の評価を県民・利用者の参画を得て行う取組

県民が主体的に行動するための環境づくり

- 県民・利用者の主体的な活動が可能となる施設や、リードできる人材（専門性の高い学芸員など）を確保する
- 県民・利用者の活動の様子が見え、伝わることで交流を広げる
- 意欲ある広範な人々が活動できるしくみをつくる
- 協力支援組織や運営協議会などの協働のしくみをつくる

第6章 多様な主体との連携により進める活動計画

- 多様な主体との連携により、博物館の質や量を高め、県民・利用者にとってよりよい活動・サービスを提供
- 博物館ネットワークを構築し、県全域をまるごと博物館にする



第7章 施設計画

- 新博物館としての使命と役割を果たすことができる空間、設備を備えた施設とする
- 県民・利用者の主体的な活動や交流の実現に配慮した施設とする
- 近接する県総合文化センターや美術館との一大文化ゾーンの形成を意識した計画とする
- 環境保全の大切さやユニバーサルデザインへの配慮を施設全体を通して感じられるよう計画とする
- 施設全体が県民・利用者の評価の対象となることを十分考慮する

敷地利用計画

- ・敷地は津市上浜町6丁目・一身田上津部田地内（約3.7ha）
- ・周辺道路からのアクセスや、県総合文化センターとの相互利用を意識した施設とする
- ・敷地内里山林を利用し、自然観察や保全活動などができる体験・体感型の施設とする

建築計画

- ・交流創造エリアを中心に、従来型の博物館イメージにとらわれない施設構成を検討する
- ・規模は延床面積12,000m²とし、10,000m²を先行整備する
- ・活動の様子が県民・利用者に見える工夫を行う
- ・誰もが安全・快適に利用できる施設とする
- ・景観、維持管理に配慮する

第8章 運営計画

- 「すべての活動を県民に開く」施設として、県民・利用者や多様な主体との協働・連携による、多様な人々が持つ力を結集した活力ある博物館運営をめざす

■運営方式

- ・学芸業務等博物館の基幹的な業務については、県直営としながら、一部業務を指定管理者等民間に委託する

■運営体制

- ・多様な人々や機関・団体等と一緒に博物館運営を進める体制、しくみづくりと人員配置を行う
- ・「総務・管理部門」「研究部門」「事業部門」の3部門構成を想定し、学芸員などの専門職員が「研究部門」と「事業部門」の双方の所属とすることで一貫して推進する

■開館形態

- ・利用者の立場に立った開館日時や利用料金を検討する
- ・多くの利用者が気軽に繰り返し利用できるよう、交流創造エリアをはじめ無料スペースを十分に確保する

■博物館の活発な利活用のための取組

- ・広報の充実
- ・博物館の魅力や楽しみを高めるサービス展開（飲食・休憩スペース、ミュージアムショップなど）
- ・多様な利用者への配慮（ユニバーサルデザインなど）

第9章 整備に向けて

■事業スキーム

- ・公設公営・一部民営（一部指定管理）

■整備事業費

- ・約120億円（第1期分10,000m²程度）

■スケジュール

- 2009(平成21)年 建築及び展示基本・実施設計
- 2010(平成22)年以降 用地造成・建築及び展示工事
- 2014(平成26)年開館目標